

日本最初の学校運動会

札幌農学校遊戯会

大学文書館 井上高聡



新渡戸稲造の「遊戯会」競技イラスト(1878年、盛岡市先人記念館蔵)

札幌農学校は開校二年目の一八七八年六月一日、外国人教師D・P・ペンハローの提案で「遊戯会」を開催した。毎年開催する学校行事として定着した日本で最初の運動会である。当時、一年級に在学していた新渡戸稲造は、この第一回「遊戯会」の様子を両親に宛てた手紙の中でイラスト入りで紹介している。競技には、大きな袋を肩まで履いて走る競技、ハードル走、玉の遠投、手押し車を使った目隠し競走、石を使った砲丸投げ、立ち幅跳び、手拾い競争などがあつた。勝者にはタオル、手帳、財布、杖、香水、鏡、紙筆、手袋などの賞品も出た。見物する人々が四、五百人も押しかけ、たいへんに盛り上がった。

札幌農学校、そして帝国大学に昇格した後の北大は、以降四十年間にわたって「遊戯会」をほぼ毎年五、六月に開催した。競技種目には、高跳び、二人三脚、依担ぎ競走、食菓競走(パン食い競走の起源?)などが次々に加わつた。さらに、農学校生がボーイとなつてお茶を振る舞つ「喫茶亭」、競技の結果を新聞号外のように配つて

回る「矢鱈減報」やたらめつぼう、「趣向を凝らした「仮装行列」、師範学校・中学校・小学校など近隣の学校の生徒が参加する競技など多彩な娯楽要素も付け加わつた。「遊戯会」は、お祭りの雰囲気溢れる大イベント、札幌の初夏を彩る年中行事へと発展していった。

一九〇一年には、当時は札幌農学校の校舎であつた現在の札幌時計台前で、農学校の創立二十五周年を記念して「遊戯会」を盛大に実施した。このとき、新種目として、農学校の各コース

(本科、予科、農芸科、森林科、土木工学科)対抗の「各科選手競走(四〇〇メートル走)」を実施し、勝利したコースに優勝旗を授与した。それまで個人戦であつた「遊戯会」に団体戦の面白みを加えた「各科選手競走」は以降、花形競技となつていった。

一九二〇年ころから、「遊戯会」を運営する学生の中に、「お祭りや見

世物として競技するのではなく、記録を重視して競技を極めたい」との声が大きくなつていった。このころになると、各種の学生競技大会が全国規模で実施されるようになり、一方で近隣の学校でも運動会が定着するようになったことが背景にあつたと考えられる。そして、一九二二年十月十一日に実施した第三十九回「遊戯会」が最後となつた。しかし、北大ではそれに代わる競技会を盛んに開催し、学生のスポーツ熱が冷めることはなかつた。



時計台前で実施した第20回「遊戯会」(1901年、大学文書館蔵)